

学校だより
「まんだ」
No. 7

自他を大事にする子供 学び続ける子供 共に未来を切り拓く子供



認める力

やりぬく力

表現する力

7月4日の授業参観は、多くの保護者の方々においていただき、ありがとうございました。子供たちも張り切っていました。

万田小では、この時期の授業参観は、人権学習の様子を保護者の方々にも見ていただくことになっているようです。このことについては、保護者の方からもいろいろとご意見をいただくこともありますので、今後、時期や内容を含め検討していきたいと思います。

「人権学習」というと、いじめや差別を連想し、なんだか重苦しい感じがするかもしれません、本来、人権学習は、私たちを縛り付けている偏見や差別から、自分自身を解放する学習です。

今回の授業参観では、6年生が「田舎であることを馬鹿にされたら?」ということについて議論していました。「言い返す」とか、「田舎の良いところを言う」とか、子供たちからはいろんな意見が出していました。ここで大事なのは、自分は本当にフラットか? 偏見や差別に縛られていないか? ということです。

もし、自分自身に田舎を馬鹿にする気持ち(田舎に対する偏見)があったら、人から馬鹿にされたとき、悔しくて→「言い返す」となったり、取り繕うために→「田舎の良いところを言う」となったりします。自分の中にある差別心が自分自身を苦しめていると思うのです。

学校は、どの子にとっても公正・公平な場所でなければなりません。相手に公正・公平を求めるとき同時に、自分自身が公正・公平であるか? を常に考えなければと思います。学校の教育目標「自他を大事にする子供」には、そんな気持ちも込められています。

夏といえば? パンツパンツ 夏休み!

2年生が国語の勉強をしています。「夏」から連想される言葉集めです。一通り言葉を集める学習をした後、今日は発表の日なのでしょう。「夏といえば?」と声をそろえ、みんなでパンパンと手をたたくと、順番に夏から連想される言葉を言うのです。

「夏といえば? パンパン、夏休み」「パンパン、プール」「パンパン、スイカ」「パンパン、カブトムシ」どんどん進んでいきますが、時々引っ掛かります。「これを言おう!」と予定していた言葉を、ほかの子に先に言われると急に困ります。そんな時は、担任の先生の助け舟。「ミニトマト育てる」「あっ! ミニトマト」。ほかの人が言った言葉をもう一回言ってOK!

そんな中、ある男の子はキラキラした目で飛び跳ねながら自分の番を待っています。この子はいったい何を言うのだろうと楽しみになります。果たして、その男の子の答えは「トウモロコシ」。クラスから「ああ」という声が漏れます。トウモロコシが好きなんだろうなあ。夏の思い出として、家族と一緒に食べたトウモロコシを思い浮かべたのだろうか? ・・・子供たちの心が見える、こんな授業が私は好きです。

もうすぐ夏休み。子供たちの楽しみなことがいっぱい経験できるといいなあと思います。

3 / 2 = 1. 5 ?

6年生は、なんだか難しい算数の勉強をしています。議論の中心は「3 / 2は1. 5と同じか? どうやって同じとわかるか?」です。こんなとき、数直線で比べれば一発で同じとわかるのだけれど・・・。子供たちはそれを使おうとしていません。苦戦しています。(いいぞ!) みんなから算数マスターと呼ばれている子が、「3 / 2は3 ÷ 2だから」というと、ほかの子が「2 ÷ 3じゃないの?」と。ここでも混乱しています。(いいぞ、いいぞ!)

この後の展開が気になるところですが、5年生の授業を見に行っている間に議論が終わっていました。残念。でも、算数は、わかりそうでわからない、できそうでできないという、ちょっとした混乱が重要だと思うのです。混乱したときは原点に戻る。「そもそも、3 / 2はどんな数か?」と。1 / 2の3つ分だと分かれれば、0. 5の3つ分と考えられます。「あっ、そうか」が大事なんです。

家庭科室の賑わい

7月4日、家庭科室では、ひまわり学級の子供たちが、食生活改善推進員(通称食改さん)に手伝ってもらいながら、親子調理実習を行いました。とても楽しみだったようで、前日から「ポテトフライとピザとおにぎりをつくる。」と教えてくれていました。

家庭科室の中は、子供たちに加えて、その保護者の方、食改さん、そして先生方。テーブルの上は、たくさんの材料と調理器具が出ており、なんだかにぎわって(ごった返して)います。

料理に使うジャガイモや玉ねぎは、ひまわりファームで子供たちがお世話をし、収穫したもので。栽培から収穫、そして調理して食べるところまで、一連の手間を経験したことになります。おお、廊下にまでいいにおいがしてきました。